

秀 賞



両親がくれる挑戦する勇氣

山形県米沢市立第七中学校

二年 北澤 謙 志

僕の両親は、何をすることも考え方がポジティブである。

父がよく言う言葉が、「元気があれば何でもできる」だ。何でも笑い飛ばしてしまうタイプで、やってみないと分からない。やるには、元気がないとスタートできない、と常に考えているようだ。

母は、それ以上かもしれない。僕がちょっとした不安を口にすると、

「問題なし!!」「ノープロブレム!!」

と連呼する。笑い飛ばしてしまうどころか、考えてくれているのだろうか、と思ってしまうくらいだ。でも、そんな母でも、僕の様子を見て母なりに何かを感じた時には、真面目な顔で言う言葉がある。母が大学生の頃にお世話になった恩師の言葉で、今でも心の中に忘れずにしまっている言葉なのだ。母の座右の銘にもなっている「あせらず、あわてず、あきらめず」だ。母が大学時代に水泳部でお世話になった先生に言われた言葉で、大会でスタート台に立った時の気持ちの持ち方なのだという。

僕も、夏は水泳と陸上をし、冬はクロスカントリースキーをしている。一年生の冬にはクロスカントリースキーで全国大会にも出場した。初出場の僕は、

ランキングが下の方でスタートも一番最後の方だった。それを見た母は、笑いながら「問題なし!!」と言いきってしまう。母いわく、「一番最後は、前を見て滑るのみ。追ってくる者がいない分、自分が前を滑っている人を追うのみ。全力を出しきればいい。」どんな状況でもマイナスな考えはしない。大会当日、スタートに立つ僕に、落ち着いた声で、「あせらず、あわてず、あきらめず」と語る。つまりは、

今までやってきたことを最後まで発揮するようにと、応援してくれているのだ。緊張する僕の頭の中から、一瞬雑念が消える瞬間でもある。しかも、母は「頑張れ」と言って応援はしない。これまで多くの水泳の大会や陸上、クロスカントリースキーの大会に出場してきたが、母の口から「頑張れ」とは聞いた記憶がない。母は、「カッコ良いぞ。」とか、「見に来たぞ。」「今日はいんじゃないか。」と言って、息を切らして滑ったり泳いだりしている僕を応援してくれる。気持ちが楽になる。こんな結果を出さなければならぬとか、こうでなければならぬという思いにならないからだ。ベストパフォーマンスができない日もあるけど、その時の最大の力を出そうという思いになる。

母の不思議な考え方はもう一つある。どんな大会でも、誰でも結果に対して反省をしようが、悪かった点やできなかった点を反省するのではなく、なぜ良くできたのかを考える点だ。ベストタイムやベストパフォーマンスができて気持ちが高ぶっている僕に、何が良かったからベストが出たのかを聞いてくる。つまりは、今までの練習で、何を強化して取り組んできたから、どんな力がついて結果を出すことができたのかを考えさせるのだ。そこにどんな理由があるのだろうか考えると僕の欠点である、ふてくされた態度が出てしまって、お互いに嫌な気持ち

ちになって次につながらないからだろう。母は自分の信念であると同時に僕の性格も分かってく対応してくれているのだと感じている。

僕は、この両親の存在と、両親の考え方が僕の力になっていくことに間違いはないと思う。特に母は、周りの方々に僕が全国大会に出場したことをほめられたり、評価されていたりしても、決してえらそうに答えたりしない。つい最近、知ったことがある。それは、母は他の人と僕の話題になると、「みんなのおかげで頑張らせてもらっているんだ。」と答えていることだ。嬉しかったのは決して僕を否定せず、僕自身が楽しくて仕方なくて、その先に僕の目指す姿や望む結果があることを知っていてくれることだ。厳しいのは、やると決めたことを途中でやめたり、いい加減な態度でいたりする時には鬼と化すことだ。口ばかりで行動が伴わない時は、「いい加減にすれば運がなくなる。」と震えるぐらいに怒られる。せつかく良い状態で練習ができて、普段の何げない言動で運をなくすというのだ。

両親のいつも変わらない姿が僕の方だ。時に心に響く大事な言葉を伝えてくれて、今の僕がある。もう少し僕自身が成長できた時には、言葉の裏にある父や母の本当の思いがさらに分かるだろうか。いつか僕も誰かの支えになるような言葉を掛けられる、そんな人間になりたい。もうしばらくは、両親の姿に甘えながら学びたい。